

わいぐ活動報告①

わいぐ交流会 in はっち

令和6年12月8日

●今年度のわいぐ交流会は、「つながり合い、深め合い、共にすすもう！」をテーマに開催しました。はっちひろばでは、南部昔コなどのステージ発表のほか、新規登録団体をはじめ多くの団体に活動紹介をしていただきました。3階の和のスタジオでは、4つの団体による体験型ワークショップが催され、たくさんのお客さんでにぎわいました。ステージ発表やパネル展示、物販、ワークショップに加え、学生発表など新しいことにも取り組み、多くの市民に活動PRができた交流会となりました。

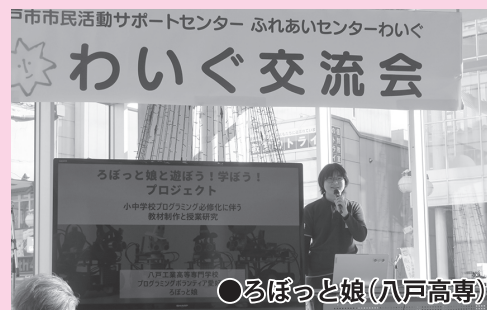
○はっちひろば（ステージ発表・活動事例紹介）



●南部昔コキャラバン隊



●脳卒中と向き合う活動団体 One Feels



●らぼっと娘(八戸高专)



●TEAM響



●はちのへ市民後見人連絡会



●パネル展示

○3階和のスタジオ（体験型ワークショップ）



●Oya・igu



●はちのへおもちゃ病院



●サステナ部

わいぐ活動報告② 地域ビジョンファクトリー開催

令和6年11月30日

●これまでも定期的に行っている事業の一つ、若者活動促進プロジェクトです。多くの若い方が参加し、新しい視点からの意見なども活発に出て、意欲的なエネルギーに満ちた、たいへん有意義なひとときとなりました。

●田子町地域おこし協力隊、吉村さんのプレゼン風景



●参加者全員でポーズ

NO.363

Drop in

代表者： 石橋 優希

不登校や起立性障害などの体調の問題、家庭の事情などで一度学校や社会からドロップアウトした学生や就業年齢の若者たちが「学び、それを活かす」場所や機会を作り、社会や地域から孤立しないコミュニティを作ること。

NO.367

トーキョーコーヒー 八戸しまもり

代表者： 久保沢 麻美

米作りを含む農作業や、地域の自然観察など自然に触れる体験活動を行うことで、子どもから大人まで心身の健康づくりを目的とする。

NO.372

イカドンファミリー

代表者： 榊 裕美

事務局： 栗林 志音

イカドンの生みの親である故・菅原武志さんの思いを引き継ぎ、イカドンを通して八戸の観光まちづくりに寄与することを目的とする。

NO.364

つながり 46 同期会

代表者： 住吉 治彦

八戸市鷗盟大学を卒業した同級生とのつながりを大切にして交流を深めながら、二年間で学んだ知識と経験を活かし、地域活動に貢献する。

NO.368

学習パーティー「FITS」

代表者： 櫻庭 信純

八戸市、または青森県を盛り上げると同時に、学びの多様化に対応し、人と人をつなげ、共に自分の世界を広げていくことで、まちづくりやキャリア教育の発展の一助となることを目的とする。

NO.373

Edulinks (エデュリンクス)

代表者： 見吉 由記

地域の方々の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実践することにより、子どもたちや様々な世代の方々が心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

NO.365

浜っ子 Time

代表者： 見吉 由記

南浜地区の子どもたちと地域の方々をつなぐ、居場所づくりと体験活動を目的とする。

NO.370

こだまの園保護者会

代表者： 石澤 多枝

事務局： 沢口 文子

利用している障がい者が幸福に過ごせるよう福祉向上に寄与し、利用者や保護者、職員等の親睦を図ることを目的とする。

NO.374

一般社団法人 今ここねっと八戸

代表者： 松橋 洋文

事務局： 萩野 聡

自己啓発セミナーや生活支援セミナー、各種勉強会などの開催を通して、参加者と主催者の相互の意識向上を図り、社会の新しいコミュニティづくりを実践する。

NO.366

家族イロイロカフェ

代表者： 橘 咲子

子育て中のお父さんお母さんが気分転換でき、話ができる場所の提供を目的とする。



NO.375

みなとの図書館

代表者： 峯 綾

事務局：みなと体験学習館みなつ知

みなとの図書館は、本を通じて学びと楽しみの場を提供し、読書を通じて地域の文化活動を促進することを目的とする。

No.377

五戸町家庭教育応援隊

代表者： 小宮 香

令和2年10月結成。令和3年4月には、文部科学省家庭教育支援チームに登録され、家庭教育を軸に、地域住民を巻き込んだ活動を行っている。『参加者全員がスタッフ』の考えで、地域づくりを実践している。

No.379

T.F.FC

代表者： 中村 圭一

主にフットサルを通して親睦を深める団体であり、サッカーの経験の有無や年齢・性別問わず、楽しく体を動かしたい有志の集まりである。

NO.376

明るい社会づくり運動 県南地区協議会

代表者： 小澤 本江

事務局： 古川 猛

新井田川灯籠流しなどのボランティア活動、「フードバンク」の提供、清掃奉仕活動など、地域貢献を通して明るい社会をつくる。

No.378

Ao (アオ)

代表者： 長塚 佳子

事務局： 木村 ひとみ

障がい者アートの素晴らしさを広く多くの人々に発信し、活動を通して社会と関わり、社会に触れ、社会に参画する機会を作る。

No.380

ともココ

代表者： 蔦谷可奈子

不登校という悩みに直面している保護者がつながり、お互いの悩みに耳を傾け合うことで、互いに寄り添える空間と解決の参考になる情報を得られるコミュニティ作りを実現することを目的とする。

スタッフおすすめ わいぐライブラリィ

わいぐでは、住民活動に役立つ書籍や冊子を閲覧できます。
わいぐ登録団体の会員へは貸し出しもしています。

なぜか人生がうまくいく「優しい人」の科学

著者： 和田秀樹
発行： 株式会社クロスメディア・パブリッシング
発行： 2024年2月11日

毎日を明るい気持ちで、機嫌よく、前向きに過ごすためのヒントをまとめた1冊！人に優しくできれば、人生が回り始める。
あなたは、自分のことを「優しい人」だと思いますか？
こう質問されて、「はい」と即答できる人は、それほど多くないはず。ほとんどの人が、「人には優しくありたい」と思っている、日ごろの言動を冷静に振り返ってみると、意外に優しくない自分に気づくのではないのでしょうか。
こんな時代だからこそ、「優しさとは何か？」を考えることで、その意味と意義を改めて見つけ、毎日を明るい気持ちで、機嫌よく、前向きに過ごせるヒントが、本書にはあります。



世界一やさしい「やりたいこと」の見つけ方

著者： 山下直久
発行： 株式会社 KADOKAWA
発行： 2020年5月28日

もう迷いだらけの生活には戻らない！自分探しを終わらせる自己理解の教科書。
「何かやりたいけれど、何をやればいいのか分からない」
そんなエネルギーを持て余してしまっているあなたの人生が変わります。
「やりたいこと探し専門プログラム」を開発した著者が教える初めの本。やりたいことは運命的に出会うものではなく、体系立てて論理的に見つけるもの。
やりたいことの見つけ方が3STEPで体系立てて理解できる、自己理解の教科書です。



第 37 回 NHK 厚生文化事業団・地域福祉を支援する「わかば基金」助成金

地域での福祉活動や被災地での福祉活動の展開、または被災地の復旧・復興などに取り組むボランティアグループや NPO を応援します。

「わかば基金」は、地域に根ざした福祉活動を展開している NPO やボランティアグループが、活動の幅を広げるための支援をしています。

福祉にとって厳しい時代だからこそ、「わかば基金」は地域に芽吹いた活動をもっと応援していきます。

次の 2 つの部門で、活動を応援します。

◇部門

1. 支援金部門
2. PC・モバイル端末購入支援部門

なお、1 つのグループからの両部門への申請はできません。

◇支援対象（両部門共通）

地域に根ざした福祉活動を行っているグループ
任意のボランティアグループまたは NPO 法人

◇支援内容・金額

1. 支援金部門

国内のある一定の地域に福祉活動の拠点を設け、この支援金でより活動を広げたいというグループ

より活動を広げるために物品等をそろえたいというグループ

- 1 グループにつき、最高 50 万円
- 15 グループほどを予定

2. PC・モバイル端末購入支援部門

- パソコンを利用して地域で活発な福祉活動に取り組んでお

り、台数を増やすことで、より高齢者や障害者に役立ち、活動の充実を図れるグループ

- 1 グループにつき、最高 10 万円を補助
- 30 グループほどを予定

◇募集要項と申請用紙

対象とならないグループや事業、その他注意事項がありますので、必ず募集要項をご確認ください。

募集要項・申請用紙は下記 HP でご確認ください。

<http://www.npwo.or.jp/info/31196>



◇受付期間

2025 年 2 月 3 日（月）～ 3 月 27 日（木）必着／郵送のみ受付

◇選考

当事業団内に設けられた選考委員会で審査のうえ、支援先を決定

◇結果の通知

選考結果（支援先の公表）は、2025 年 6 月中にわかば基金のホームページに掲載予定

◇申請・問い合わせ先

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-4-1

NHK 厚生文化事業団「わかば基金 ○○○○部門」係

※あて先の「○○○○」には、「支援金」か「PC モバイル」のどちらかをご記入の上、郵送してください。

03-3476-5955（平日 10：00～17：00）

編集後記

転ばぬ先の杖ということわざがあるが、世の中には、注意しても避けることのできない事故や事件などたくさんある。

私の事だが、注意をしていたはずなのに、雪道で足が滑り 3 回も、転んだ。

友人は、年末に、半開きのドアにぶつかり、吹っ飛ばされて

大腿骨を折って現在も入院中。

そしてもう一人は、前につんのめり、右肘を骨折。現在も治療中。

みなさん、注意の上に注意を重ね、突発事故や事件に遭わないように、くれぐれも気を付けましょう。（自戒を込めて）

（黒澤美智子）

～編集発行～

八戸市市民活動サポートセンター
「ふれあいセンター わいぐ」

●編集●

公募編集委員＝松原新一・
佐々木彩子・黒澤美智子・住吉治彦
わいぐスタッフ

〒039-1166
青森県八戸市根城八丁目 8-155

八戸市総合福祉会館
（はちふくプラザ ねじょう）3 階

TEL 0178-73-3311

FAX 0178-73-3312

E-mail support@waigu.info

HP <https://www.waigu.info/>

facebook

（八戸市市民活動サポートセンターわいぐで検索）

はこちらもご覧ください



わいぐ HP

わいぐの HP はこちらから見ることができます。

～「わいぐ」という名前について～
青森県南部地方の「私、行く（わあ、いぐ）」という方言が元になっています。「市民が積極的に社会の問題に取り組むきっかけの場所になるように」という願いが込められています。